

2024 年 5 月 28 日

実践女子大学・実践女子大学短期大学部
教員研修 実施報告書（Web 公開用）

1. 所属	文 学 部 国 文 学 科
2. 職名・氏名	教授・福嶋健伸
3. 研修期間	2023 年 4 月 1 日 ～ 2024 年 3 月 31 日
4. 研修先機関（国名）	国立大学法人 埼玉大学 教養学部
5. 研修課題名	中世末期日本語のテンス・アスペクト・モダリティ体系
6. 研修経過 （月単位で記載してください） 例）4月上旬～5月下旬：	4 月：国立大学法人埼玉大学の私学研修員として、研修をスタートする。特に 4 月の前半は、研究環境のセットアップが中心であった。埼玉大学の私学研修員制度のお陰で、非常に恵まれた環境で、研修生活を始めることができた。 5 月～9 月：中世末期日本語のテンス・アスペクト・モダリティ体系を記述し、それを踏まえた上で、古代日本語から現代日本語までの当該体系の変遷を明らかにした。 10 月～3 月：出版助成を申請、研究書の執筆を進めた。
7. 本研修で得られた成果等（論文・学会発表含む）	2024 年度中には、本研修の成果を出版する予定である。内容は、3 部構成を予定している。第 1 部にて中世末期日本語のテンス・アスペクト・モダリティ体系を記述する。第 2 部にて古代日本語から現代日本語までのテンス・アスペクト・モダリティ体系の変遷を明らかにする。第 3 部では、これまでの第 1 部と第 2 部で述べたことが、「国語教育」や「日本語学史」に応用できることを示す。 なお、その内容の一部は、第 20 回現代日本語文法研究会（2024 年 3 月 27 日（水曜日）、ZOOM 開催）にて、「日本語のテンス・アスペクト・モダリティ体系の変遷」というタイトルで発表している。
8. 所感	埼玉大学の関係者のご厚意で、非常に充実した研修生活を過ごすことができた。また、本学の職員の方との連携も、うまくとることができ、その意味でも、恵まれた環境であった。お一人おひとりのお名前を挙げることはできないが、伏して心より感謝申し上げたい。 また、本研修の成果は、今後の言語学の教育に、直接的に還元できるものである。このため、研究活動のみならず、今後の教育活動のためにも、大変有意義な研修であったといえる。

※A4 1 枚～2 枚以内で作成してください。